

R.H. Blyth がつなぐ人の縁：荒井先生と上田先生

The Relationship: R.H. Blyth, Professor ARAI and Professor UEDA

菊地 善太

KIKUCHI Zenta

一昨年暮れの『週刊朝日』誌（2013年12月27日号）に今上陛下の祝傘寿の巻頭グラビア記事が載った際に、上田先生は記事が陛下の平和を願う気持ちを見せていたことを喜び、記事の終わりに『ブライズ先生、ありがとう』からの引用があることを見つけてさらに喜ばれました。

ほぼ同じ年で Blyth 先生の教え子という縁もあって、上田先生にとって今上陛下は格別の存在であり親近感のある存在なのでしょう。そんな陛下から上田先生は、この平成 27 年春の叙勲で「瑞宝中綬章」を授かることになりました。

この褒章の知らせに際して上田先生が掲げられたのは、『英語能ハムレット』ではなく『ブライズ先生、ありがとう』の一冊でした。

叙勲の御式に臨まれるのに、先生はシェイクスピア能の業績を胸に臨席されるというより、同じく Blyth 先生の教えを受けた一人として、今上陛下への謁見を心待ちにされていたことと思います。

無事に勲章を授かり、また皇居「春秋の間」では、健常者では唯一陛下とお話されたと聞き、私たちも嬉しい喜びの気持ちでいっぱいです。

この叙勲の知らせの直前に、荒井良雄先生がご逝去されました。

荒井先生も上田先生とはほぼ同じ年で、また Blyth 先生の教え子でもあり、上田先生にとって誰よりも良き理解者のお一人でした。

上田先生は今回の受賞を誰よりも先に荒井先生にご報告されたのではないかと思います。荒井先生もまたあの世から見守り喜んでくださっておられることでしょう。

陛下、荒井先生と上田先生をつなぐのは R.H. Blyth 先生のご縁でしょうか。もちろんそのご縁は御三方にとどまりません。Blyth 先生の教えは、上田先生や荒井先生によって受け継がれ、

教え広められ、現在もたとえば川田基生学兄が Blyth 先生に関する論考を積極的に発表されています。

Blyth 先生に関する著作を読み『ブライズ先生、ありがとう』を読んで感動した私たちもまた、そこに連なる一人ひとりと言えるかもしれません。

“真摯に生きて真善美にふれる”、これが今のところ菊地の Blyth 先生の教えに対する理解です。

今後とも時々 Blyth 先生を思い、その教えへの理解を深めていきたいと思います。

- ・沙翁能 謡いて舞いて福来たる めでたきかな めでたきかな

(ISHCC 事務局長)